

第2回北海道地域学校協働活動推進協議会（道央会場）

【道央】平成30年10月17日（水）（札幌市・道庁別館地下1階大会議室 他）参加者：91名

1 説明「一体型・連携型の放課後児童クラブ、放課後子供教室について」

説明者 学校教育局義務教育課子ども地域支援グループ主査 石田 貴 宏

「新・放課後子ども総合プラン」のポイントや全道で実施されている一体型・連携型の取組事例等について説明がありました。

参加者からは、「新しい放課後子ども総合プランの改正点が整理できた。」「安全面、子どもの主体性の尊重という面でも一体型・連携型は有効だと改めて実感した。」などの感想が寄せられました。



2 事例発表「砂川市における放課後子ども教室の取組について」

発表者 砂川市教育委員会社会教育課課長補佐 谷 口 昭 博 氏

砂川市の放課後子ども教室の開設までの経緯や、活動を支えるサポーター等の説明がありました。

参加者からは、「一人の子どもを地域みんなの子どもとして育てている様子が伝わった。」「地域のコミュニティが大切だと感じた。」などの感想が寄せられました。



3 講 義「子どもの貧困の状況及び北海道の対策について」

講 師 北海道保健福祉部子ども未来推進局 子ども子育て支援課自立支援グループ主査 嘉多山 裕 史 氏

「北海道子どもの生活実態調査」の結果や児童相談所に報告される虐待の事例等が紹介され、地域における子どもの居場所（子ども食堂等）の必要性について説明がありました。

参加者からは、「子どもの貧困の状況について理解できた。できることから支援したい。」「子ども食堂の取組が勉強になった。」などの感想が寄せられました。



4 選択研修

A 演習「レクリエーションプログラム」

講師 札幌市レクリエーション協会事務局長 伊 藤 雅 子 氏

集団で気軽に楽しく取り組めるレクリエーションについての研修を行いました。特別な道具を使わず、身近なものを使って仲間とコミュニケーションを図ることができるプログラムが紹介され、参加者からは、「参加者と自然に打ち解けることができた。子どもたちともやってみよう」となどの感想が寄せられました。



B 演習「創作活動プログラム」

講師 道立青少年体験活動支援施設ネイパル砂川社会教育主事 菊地 久美子 氏

自然にあるものを素材とした創作活動についての指導のポイント及び注意点が説明され、その後、木の実や枝などを炭化させた材料を使って制作を行いました。

参加者からは、「炭作りの方法が意外と簡単で驚きました。子どもにとっても良い体験になると思うので実際にやってみます。」「子どもたちの発想力につながる活動として、とても参考になった。」などの感想が寄せられました。



C 演習「音楽・リズムを楽しむプログラム」

講師 A-bank 北海道 (Hizz Performance Style 代表) 小塚 拓 氏

体を動かす活動を行うときの注意点や、リズムを感じながら自分を表現することで得られる効果などについて、説明と体験を交えて演習を行いました。

参加者からは、「音楽やリズムが、その子の個性を表現する機会にできることを学びました。」「体を楽しく動かすことで自然と笑顔になりました。学んだことを活用したいです。」などの感想が寄せられました。



5 コーディネーター協議会

講師 学校教育局義務教育課子ども地域支援グループ主査 石田 貴宏

学校と地域が連携・協働して活動していくために、地域学校協働活動とコミュニティスクールの関係、コーディネーターに期待される役割について説明がありました。また、学校と地域の人が課題やビジョンを共有するための「熟議」（話し合い）を体験し、コーディネーターが地域で活動する上で必要となるスキルについての実践的な研修が行いました。

参加者からは、「熟議のやり方がわかり、大変勉強になった。」「悩みや各地域の取組を交流できた。自分の地域で生かしたいと思う。」などの感想が寄せられました。

